

7. 域内交通に係る取組

- 1 上高地（長野県）
- 2 小布施（長野県）
- 3 白川村（岐阜県）
- 4 しまなみ海道（広島県、愛媛県）
- 5 秩父サイクルトレイン（埼玉県）
- 6 函館（北海道）
- 7 松江（島根県）
- 8 明日香村（奈良県）
- 9 湯原温泉・「天井号」（岡山県）
- 10 湯西川・水陸両用バス（栃木県）
- 11 タンゴ浪漫ライン（京都府、兵庫県）



上高地

【かみこうち】

- 自然環境保全のためのマイカー規制の先駆け
- 観光客等の理解を得ながら年々規制を強化、かえって自然環境保全に対する強い姿勢をアピール



河童橋と穂高連峰

■ 取組概要

自動車の乗り入れ規制により、環境への負担を軽減し、世界に誇る上高地の自然をゆっくりと楽しんでもいただく

昭和9年上高地が中部山岳国立公園に指定されたのを機に、翌年河童橋までバスが運行されるようになり、誰もが気軽に行くことができる観光地として年々観光客の数が増加。昭和40年代にはマイカー普及が拍車をかけ、上高地の駐車場は常に一杯。道路は駐車禁止にも拘わらずどこでも駐車をさせてしまうような事態に陥り、交通渋滞と排ガスや違法駐車による自然環境破壊が深刻化した。この問題を解消するため、昭和50年ついにマイカー規制を実施。

その後徐々に規制日を拡大し、平成8年にマイカーの運行が全面禁止されるとともに、一部の観光バスの通行規制も実施。かけがえのない自然環境を守るため、観光客にはおおむね理解され定着してきている。

これまでの経緯

昭和9年	上高地を含む北アルプス一帯が中部山岳国立公園に指定される。
昭和43年	安曇3ダム建設に伴う国道158号の全面改良が完了。 高度成長期と重なり上高地へのマイカー利用が増大。
昭和44年	長野県警察がマイカー規制の提案をする。
昭和45～48年	上高地の渋滞状況がピークとなる。違法駐車による植生の破壊、騒音、排ガスが問題となる。
昭和49年	環境庁、警察、関係行政機関、交通関係者、観光関係者で構成した「上高地自動車利用適正化連絡協議会」が発足し、自動車利用の適正化の検討を開始。
昭和50年	県道上高地線マイカー規制を開始。（7月26日～8月24日の夏季のみ）
昭和51年	マイカー規制期間中にあわせ、「村宮沢渡有料駐車場」を整備。
平成8年	徐々に規制日を拡大し、通年マイカー規制実施。沢渡及び平湯でシャトルバスかタクシーに乗り換える。
平成16年	観光バスによる渋滞対策として、観光バスの通行規制を実施。



統計データ

○延べ利用者数	平成12年 1,989千人	平成13年 1,931千人	平成14年 1,904千人	平成15年 1,925千人
	平成16年 1,546千人	平成17年 1,448千人	平成18年 1,543千人	平成19年 1,550千人
	(出典：長野県観光地利用者統計調査結果)			

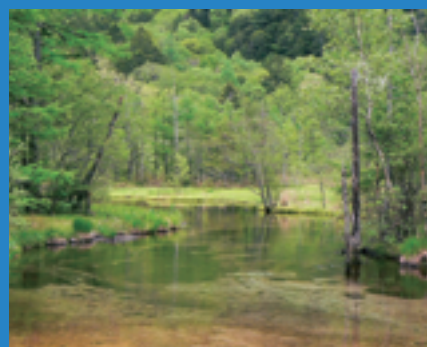
地域づくりのノウハウ

課題 マイカー規制導入に際し、観光客減少を懸念する観光関係者の反対や規制遵守の苦勞をどのように克服してきたか。

解決策 いろいろな意見をいただきながらも、関係者との連携を図り、自然環境や観光客への有効性を、徐々にではあるが、理解していただけるよう取組んできた。

課題 平成16年の観光バスの規制による観光客の減少の懸念。

解決策 規制により観光客が減ったとしても、本物の自然の息吹に直接ふれ体感できるように、また、環境保護を優先に上高地の自然を次代へ継承するため規制を断行した。



お問い合わせ

上高地自動車利用適正化連絡協議会事務局
(環境省松本自然環境事務所)

TEL：0263-94-2024

小布施

【おぶせ】

- まち歩きに程よい規模という町の特性を活かし、郊外にマイカーを停めて町中を散策する「パークアンドウォーク」を推進
- 高速道路のパーキングエリア及び道の駅に併設した公園を整備。公園内施設を起点に周遊バスを運行



周遊バス「おぶせ浪漫号」

■ 取組概要

町内を周遊するレトロなシャトルバス「おぶせ浪漫号」を運行し、歩いて楽しむまちづくり「パークアンドウォーク」を進める。

小布施町は、昔から豪農豪商の家が多く、独特の古い街並みを誇っている。そのため、町内の道路や駐車場はそれほどの容量を持っていない。これまでは長野電鉄小布施駅を利用するか、車等の交通機関で訪れるしか方法がなかった。

町自体が徒歩や自転車で散策するのにちょうどよい規模であること、町のはずれを通る高速道路の利用者が素通りしてしまう危惧などを考え、小布施ハイウェイオアシスを設置。このハイウェイオアシスへは、上信越自動車道小布施パーキングエリアを通じて、また一般道からも立ち寄ることができる。

そのためハイウェイオアシスからは、利用者がパークアンドライド形式で町の中心部へと気楽に周遊を行うことができるように、同公園内の千曲川ハイウェイミュージアムから町中心部等を結ぶレトロな周遊バス「おぶせ浪漫号」の運行を行っている。

上信越自動車道の小布施パーキングエリアからのお客様を町内にお迎えするという交通手段として、また、長野県で一番小さな町の特性を生かし、郊外に車を止め、町中を歩いて散策していただくという「パークアンドウォーク」運動を推進するための一つの柱として運行している。

■これまでの経緯

- ・平成8年度から「おぶせ浪漫号」を運行。
- ・運行経費の一部を協賛金として企業からいただいている。（広告ということで企業名をバス内に掲示をし、さらにバス停案内看板の地図に表示している。）
- ・運行経路は町内の主な観光施設である。
- ・運行日は、12～3月を除く土曜・日曜・祝日および行楽期の平日運行。



■統計データ

○おぶせ浪漫号（シャトルバス）年度別利用状況

平成17年度 10,063人 平成18年度 9,437人 平成19年度 8,731人

（利用客は減っているが、リピート率は高く、特に女性客が多く利用している。）

🗨️ 地域づくりのノウハウ

課題 小布施スマートIC近くにあるハイウェイミュージアムを起点として、町内主要施設を経由している。年々観光客は増えているが、中心部に駐車場ができるなどして利用客は減っている。

解決策 レトロでおしゃれなバスなのでリピート率は高く、小布施の観光スポットの交通手段の一つとして活躍している。春・秋の行楽シーズンは、乗りきれずバスを2台運行する日もある。シャトルバスを利用してもらうために、町の中心部からはずれたところに駐車場をつくり、シャトルバスを利用してまちを歩いてもらうようにしている。



お問い合わせ

小布施町役場産業振興グループ

TEL：026-247-3111

URL：http://www.town.obuse.nagano.jp/

白川村

【しらかわむら】

- 観光客の増加に伴う交通問題対策として、観光車輛の乗入規制を地域が自主的に実施
- 交通規制が、環境保全や安全確保だけでなく、滞在時間の増加にも繋がる効果をもたらす



白川村・合掌造り集落

■ 取組概要

世界遺産にふさわしい景観を目指して

白川郷荻町合掌造り集落では、白川村内の合掌造りがダム開発や集団離村、大火災などにより、減少（消失）する中、昭和46年に地域住民が賛同し「荻町集落の自然環境を守る会」が発足、合掌造りを「売らない・貸さない・壊さない」を原則とした住民憲章を掲げ、保存が進められた。地区内では、建物等の工作物、道路、農地の形状を変更する場合は事前に守る会へ申請し、許可されなければ実施できないという厳しいルールを設けて、農山村集落の景観保全に取り組んでいる。

観光客の増加に伴い、特にGWやお盆などのピーク時には合掌造り集落内は人と車があふれ、景観の阻害はもとより、交通渋滞による歩行者の危険や有事の災害時の緊急車輛の通行など問題が多い。そこで「新交通システム」と称し、交通コントロールの確立を目指して、観光車輛の乗入規制を自主的にを行っている。

これにより、集落景観の保全はもとより、観光客がゆったりのんびりと散策できる環境整備などが図られ、白川郷の魅力向上が期待できる。

更に、平成21年9月からは、大型車輛の乗入規制を年間実施することが地域住民の賛同を得て決定し、9時～16時の時間帯は大型バスの集落内への乗り入れができなくなった。

■これまでの経緯

昭和51年に国指定重要伝統的建造物群保存地区に選定され、平成7年にユネスコの世界遺産リストに文化遺産として登録された。

これに伴い、白川郷を訪れる観光客は東海北陸自動車道の延伸の影響もあり大きく増加した。昨年は東海北陸自動車道が全線開通し、年間180万人を超える観光客が訪れている。

村では平成13年に白川村まちづくり委員会を立ち上げ、世界遺産地域を重点とした白川村の交通対策基本計画を策定した。また、平成13年には国土交通省の支援を受けて交通社会実験を実施、翌平成14年には交通対策の試行、以降一方通行規制や車輛規制の試行など本格実施に向けた取組を行い、平成19年から年18日間を実施している。将来的には年間（降雪時期を除く）を通した規制を行うよう進めている。

しかし、年間実施については実施の必要性は理解されているものの、駐車場が集落外となり観光導線が大きく変わることや、駐車場保有店舗からの反発、集落外駐車場容量不足などの問題もあり、現状は年間18日の実施となっている。

また、高速道路全線開通に伴い来訪者が大きく増加したため、平成21年からは集落内の大型車輛乗入規制することを地域住民が合意し、実施することとなった。

平成13年 交通社会実験実施（年2日）

平成14年 交通対策の試行実施（年1日）

平成17年 新交通システムの試行実施（年2日）

平成18年 新交通システムの試行実施（年8日）……4月～11月第3日曜

平成19年 新交通システムの実施（年18日）……4月～11月第3金土、どぶろく祭2日

平成20年 新交通システムの実施（年18日）……4月～11月第3金土、どぶろく祭2日

平成21年 新交通システムの実施（年18日）……4月～11月第3金土、どぶろく祭2日

9月～合掌造り集落内大型車輛通行規制（通年）9時～16時



■統計データ

○観光入込客数

平成7年 771千人（内宿泊97千人） 平成15年 1,559千人（内宿泊64千人）

平成19年 1,464千人（内宿泊91千人） 平成20年 1,861千人（内宿泊99千人）

○内外国人観光客数 平成20年 123千人

🏠 地域づくりのノウハウ

課題 現状では駐車場容量の不足や一部の観光営業者の反発もあり、年間を通した実施ができず、また、周知・PR不足もあるため、実施日においては駐車場案内を含め混乱や問題等が見受けられる。

解決策 駐車場容量に関しては、2009年度に集落外に駐車場の増設を行うよう予算化を進めており、早急にインフラ整備を進めたい。

規制日には、集落内の混雑も緩和され、来訪者もゆったり快適に散策できるという声も多く寄せられ、滞在時間の増加にも繋がっているという効果が得られている。

※通年実施については、規制を実施した場合、観光車輛はすべて集落外の駐車場からのアクセスとなることから、土産、飲食店からの反発もある。委員会としても、段階（徐々に日数

を増やす）を踏んで実施する方向で進めていきたい。

課題 規制することにより、駐車場周辺の一極集中や観光導線が変わることにより、営業格差が懸念される。

特に土産店、飲食店は、観光客は車を止めた周辺で土産を買う、食事をするという傾向があり、駐車場から離れた営業者の売上が懸念。集落内の個人駐車場や駐車場を持っている営業者から反発 など

解決策

・営業者と対話し理解を求めている。

・本年4月から集落内区営駐車場のバス駐車を廃止（マイカーのみ）とし、今後集落内区営駐車場を廃止することなども検討・実施していくこととした。

お問い合わせ

白川村役場産業課商工観光係

TEL：05769-6-1311

URL：http://shirakawa-go.org/

しまなみ海道

【しまなみかいどう】

- しまなみ海道に併設された自転車歩行者道を観光資源として活用
- 沿線自治体がレンタサイクルの広域利用につき連携



レンタサイクルを利用する観光客

■ 取組概要

日本初の海上サイクリングによるしまなみ海道沿線の地域・観光振興の向上

広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ瀬戸内しまなみ海道には、自転車歩行者道が併設されているため、自転車で海上を渡ることができる特徴がある。海峡を横断する壮大さ、そこから眺望する多島美の美しさは多くの観光客を魅了している。また自転車を利用することで各島に点在する歴史文化の観光をゆっくり楽しむことが可能である。全長約70kmのサイクリングロードにおいて本格的にサイクリングを楽しむ人から、観光コースを中心に家族づれで楽しむ人まで、様々な楽しみ方ができ、全国に多くのリピーターを有している。

このような特徴ある地元資源を活用した観光施策として、尾道市と今治市が実施主体となり、しまなみ海道レンタサイクル事業を展開している。また、瀬戸内しまなみ海道振興協議会と一体となった広報展開も行っている。

■これまでの経緯

【しまなみ海道開通までの背景】

- ・合併前の各自治体において、個別に自転車貸出事業を実施。
- ・広域的な利用がなされ始め、返却方法等の課題が発生。課題解決のため広域的な仕組みづくりの必要性が高まる。

【しまなみ海道開通】

- ・合併前10市町の沿線自治体においてレンタサイクル事業の協定を締結し、料金、ターミナル間の乗り捨ての統一運用を実現可能とする。
- ・平成11年5月1日しまなみ海道が開通。
- ・乗り捨て運用の充実のため、各島ターミナルの拡充を図る。開通効果もあり、年間約7万人の利用者を記録する。

【しまなみ海道開通後】

- ・その後は尾道、今治全体で年間約3万人の利用で推移する。
- ・平成19年4月市町村合併を経て、現在は尾道市、今治市の2市で事業継続している。自転車ブーム、しまなみ海道への注目が高まることで利用者数は増加傾向にある。



■統計データ

○レンタサイクル貸出件数	平成17年度	29,896人(前年比 98%)	平成18年度	35,478人(前年比119%)
	平成11年度(開通年)	70,010人	平成19年度	39,034人(前年比110%)
			平成20年度	41,926人(前年比107%)

🏠 地域づくりのノウハウ

(しまなみ海道開通時レンタサイクル事業の基盤整備)

課題 しまなみ海道開通により、レンタサイクルの利用範囲が拡大したことで、返却(乗り捨て)や料金差異が問題となった。

解決策 しまなみ海道沿線市町(一部事務組合)による協定締結で、料金の統一、各ターミナルでの乗り捨てが実現されることで利用しやすい環境が整備され、しまなみ海道全体での地域振興のツールとしてレンタサイクル事業が確立された。

(現状運営の課題)

課題 協定による尾道市・今治市の運営ルールは確立されたが、実質の自転車の購入や保守、運営に係る回送、予約については各自治体運営であり、運営コストや運営作業は効率が悪く、繁忙期の運営に弊害が生じている。利用者増加対策として、回送、予約体制の集約を中心とした自転車の効率運営を課題として捉えている。

解決策 現状運営に関しては、運営の1本化は調整できていないが、個別の課題については尾道市、今治市の各ターミナル担当を交えた協議を定期的に行い、運営方法等の統一化を図っている。

お問い合わせ

尾道市産業部観光課

TEL : 0848-25-7184

URL : <http://www.go-shimanami.jp/>

秩父サイクルトレイン

【ちちぶさいくるとれいん】

- 自転車をそのまま携行して乗車できる電車を運行させるユニークな取組
- 観光振興を図りたい行政と公共交通機関利用促進等を目指す民間がタイアップ



サイクリングイベント「秩父サイクルトレイン」

■ 取組概要

そのまま電車に乗れる「イージー・ECO・トレイン・ツアー」

秩父市と西武鉄道他関係団体が『秩父サイクルトレイン実行委員会』を設立し、秩父地方の自然と歴史を感じていただくサイクリングイベントを開催、参加者には都心から秩父地方へ臨時電車で自転車をそのままの形で持ち込んで乗車していただくサービスを提供。これは秩父市内の観光の活性化と観光需要の拡大、および公共交通機関の利用促進を目的とし、自治体と民間企業が「共生」した取組である。また、自分の自転車で各コースを楽しんでいただくことや、自動車を使わず自転車でそのまま乗車できる臨時電車を運行することにより二酸化炭素の排出量が削減されるなど、環境にも優しい取組である。

■これまでの経緯

平成19年7月に秩父のサイクリングによる観光振興に賛同する13団体の参加者をもって秩父サイクルトレイン実行委員会を組織し、自転車を分解、折りたたんで輪行袋に収納することなくそのまま乗車できる臨時列車を運行するサイクルトレインを開催。

募集定員は合計250名で、臨時列車「CYCLE SPORTS (サイクルスポーツ) 号」の乗車とサイクリングを希望される方200名、サイクリングイベントのみ参加希望の方50名。

第1回は平成19年11月18日(日)、第2回は平成20年5月18日(日)、第3回は平成20年11月16日(日)に実施し、過去3回とも募集定員をはるかに超える応募があり大変好評だったため、第4回を平成21年11月15日(日)に開催した。



■統計データ

○参加状況

第1回：応募総数1,032人、参加者数249人

第2回：応募総数 716人、参加者数249人

第3回：応募総数 933人、参加者数212人

📖 地域づくりのノウハウ

(イベント開発時)

課題 予算0円からのスタート

解決策 スポンサーの募集、雑誌社の協力

課題 募集方法が旅行業法に抵触しないか

解決策 旅行業法に則り、第1回は「電車申込(西武鉄道)」と「サイクルイベント申込(秩父サイクルトレイン実行委員会)」別々に分けて募集対応した。第2回以降は、旅行企画実施会社のツアー旅行として実施した。

課題 電車への円滑な乗車方法等

解決策 電車内の安全確保(参加者の乗車位置、自転車の固定方法、車内の避難誘導通路の確保)には、事前に実車で試験し万全の体制で対応した。

課題 コース策定及び地域(地元)との連携

解決策 地元サイクルショップの協賛を得て、サイクリン

グに適したコース設定(見所、道路状況を考慮)し、多くの地元コーススタッフも協力し秩父の魅力を伝えることができた。

(イベント実施時)

課題 サイクリング時の安全対策

解決策 地元コーススタッフが誘導し、小グループで走行させることにより、安全対策の指導と迷子対策を行った。また、各コースにサポートカーを伴走させ、走行時のトラブル対応にあたり、スムーズなイベント運営を図った。

(イベント実施後)

課題 継続的な実施のための予算等確保

解決策 環境に配慮したイベントとして継続開催に向け企業等に呼びかけた結果、12社から協賛を得た。

お問い合わせ

秩父サイクルトレイン実行委員会事務局
(秩父市産業観光部観光振興課内)

TEL : 0494-25-5209

URL : <http://navi.city.chichibu.lg.jp/walk/cycletrain/>



- 利用者の様々な要望にマッチしたワンコインバスで住民と観光客の足を確保
- バスロケーションシステムの導入により、バス待ちの不満を解消



函館ワンコインバス

■ 取組概要

ワンコインバスの運行による住民・観光客の足の確保と、的確で迅速な情報システム導入によるバスの魅力向上

安価で気軽に乗れるワンコインバスを実証実験として運行した結果、利用者から好評を得て、その後通年運行することとなった。現在では住民の生活の足として浸透しただけでなく観光客の足としても活用されている。

また、バス利用者の利便性向上のため、運行中のバスから無線で送られてくるGPS情報をもとに、運行状況や時刻表の情報提供をリアルタイムで行うバスロケーションシステムを導入した。

■これまでの経緯

<ワンコインバス>

- 平成10年12月 利便性向上のため、人口、施設が多い地区を対象に気軽に乗れるワンコインバスを開始。(リング)
 平成12年10月 市立病院が移転したことに伴い、病院利用者の足を確保するとともに、病院と商店街を結ぶシャトルバスを運行。(レクサ100)
 平成14年4月 マイカーによる観光地の渋滞緩和、新規需要の掘り起こしを目的として、安価な運賃と20分間隔で運行する利便性を考慮したワンコインバスを実施。(レクサ元町)
 平成16年4月 函館市の主要部五稜郭近郊から五稜郭中心部へは乗り継ぎが必要であり不便なことから、中心を回るワンコインバスを実施。(レクサ五稜郭)

<バスロケーションシステム>

- 平成19年3月 バスロケーションシステム事業を開始。バス運行情報を主に4つのシステムで配信している。①パソコンや携帯電話 ②主要停留所22ヶ所 ③市役所・駅前案内所・市立函館病院・中央図書館に設置している大型ディスプレイ ④函館空港・JR函館駅に設置しているタッチパネル式のキヨスク端末。
 ・導入後利用者へアンケートを実施し「バス停の時刻が簡単に確認できるようになり便利になった。」「目的地への到着予定時刻もわかるので行動の計画が立てやすくなった。」等、好評であった。
 ・バス車内への広告掲載や利用ガイドブックの配布を行うとともに、ボランティアガイドの集会の場でバスロケーションシステムの概要や検索方法を解説し、観光客に説明し、利用してもらえるよう協力いただいた。その効果もあり、アクセス数も増加。
 平成20年2月 学生向け乗車券「学割カード」購入者に、バスロケーションシステムに直接接続できるQRコード付きの携帯ストラップを配布。これにより、手軽にバスの運行状況を確認できるようになった。



■統計データ

○ワンコインバス(レクサ元町) 乗客数

平成17年度 79,310人 平成18年度 91,898人 平成19年度 93,206人 平成20年度 90,277人

○バスロケーションシステム 利用アクセス数

平成18年度(3月のみ) 52,097件(システム開始初日のアクセス数1万件を突破)

平成19年度 1,210,670件 平成20年度 1,406,062件

📍 地域づくりのノウハウ

<ワンコインバス>

課題 運賃をワンコインにする事によるバス会社の負担の増加

解決策 中型バスを導入することで大型バスより費用を抑えることができ、また、道路幅員が狭い所を円滑に運行できることにもつながった。バス停を新興住宅地にあうよう木造で小型化し、デザインも車体カラーと一体化させる等、低コスト化を行った。

<ワンコインバス実施時>

課題 利用者の要望に合った運行経路の設定

解決策 利用者の利便性を考慮し、新興住宅地や商業施設を運行経路に含めた。また、休日になると利用者が減少する傾向になっている為、対策として他地域商店街へ路線を延伸させ、新しくできた商業施設を常に運行経路に含める等、減少傾向を抑制した。

<ワンコインバス実施後>

課題 利用者に対する効果的な宣伝方法

解決策 インターネット・パンフレットの配布など宣伝・広告等に力を入れ、更に利用の多いバス停には利用者の乗降調査を行いながら、利用者へ直接チラシを配布する等により、年々利用者は増加傾向にある。

<バスロケーションシステム導入時>

課題 携帯電話から利用者への情報提供方法や負担の抑制

解決策 携帯電話による情報提供では、できるだけ利用者に負担をかけないようパケット通信料を抑えるようにし、イベントや新しい事業を展開する際には、常に最新の情報を更新し宣伝効果を高めた。

<バスロケーションシステム導入後>

課題 運行の遅れに対する利用者の不満の解消

解決策 システム導入前は冬場は積雪等、道路状況が悪化し、運行に遅れが生じる事があった。しかし、システム導入後は遅れ情報の提供により、バス停での待ち時間を少なくでき、また、バス停ではバスの接近情報のほか、利用者に待ち時間に退屈させないよう、新聞ニュースを表示させた。

<バスロケーションシステム導入後>

課題 利用者への利用方法の説明

解決策 利用者への周知と利用の仕方が重要であったことから、リーフレットや利用ガイドブックの配布のほか、新聞には利用方法等の解説を3回の連載記事として掲載、携帯電話会社と協力し、主要バス乗場での利用促進のキャンペーンを実施し、PRに努めた。

お問い合わせ

函館バス株式会社
バス事業部管理課

TEL : 0138-51-3960

URL : <http://www.hotweb.or.jp/hakobus/>



- 市内の遊覧に舟運を活用することにより、城下町の風情をゆっくり鑑賞
- 雨天や冬季の対策も施し、年中安定的に運行



遊覧船による堀川めぐり

■ 取組概要

城下町の変わらぬ風情とゆっくり過ぎていく時を船上から感じてみませんか

城下町・松江の中心部を流れる堀川の浄化・水質改善と水門の撤去を機に、平成9年7月に就航した堀川遊覧船「ぐるっと松江・堀川めぐり」は、年間乗船客数が30万人以上を超える松江市の主要観光施設に成長。

船上から眺める風景は、観光客や市民にとっても新鮮に映り、掘割の残る城下町松江の良さを再認識することとなる。

更には、宍道湖からの通年導水による水質浄化対策、親水護岸整備、遊覧船の就航、にぎわいと情報発信、堀川の再認識と環境美化意識の高まりなどに繋がっていく。

また、船頭には、高齢者を採用することにより、就労の場の提供と生きがい対策をも担っている。

これまでの経緯

- ・昭和の初期まで、堀川は水の流れが豊かで綺麗な川であった。
 - ・鉄道や自動車などの陸上交通の発達により、堀川は埋め立てられたり、川幅も狭められ水の流れも悪くなる。
 - ・昭和40年代には、酸欠による魚が大量に浮いたり、悪臭が漂うなど市民生活とかけ離れた堀川となる。
- 昭和47年 堀川を浄化するため、ヘドロの除去や公共下水道整備が始まる。
- 昭和55年 松江青年会議所が「よみがえる堀川の会」を発足、遊覧船による堀川の有効活用を松江市に提案。
- 昭和57年 堀川周辺で下水道が供用開始され、生活排水が堀川に流入することもなくなり、水質改善も進む。
市民ボランティアによる清掃活動が広がる。
- 昭和63年 堀川が建設省の「ふるさとの川モデル事業」に指定。
- 平成5年 堀川が建設省の「清流ルネッサンス21」に指定。
- 平成8年 末次ポンプ場が完成し、宍道湖の湖水が浄化用水として堀川全域に流れる。また、締切水門が撤去され船の航行が可能となる。
- 平成9年7月 堀川遊覧船事業が開始。
- 平成19年7月 乗船客数300万人を達成。



統計データ

○乗船客数

平成17年度 314,053人 平成18年度 319,894人 平成19年度 332,622人

地域づくりのノウハウ

【取組実施段階（運行開始時）】

課題 川沿いに住む住民から、船から家の中が丸見えになるという苦情

解決策 民家の生垣整備費の補助を行う

松江市単独予算（町内会へ生垣整備の補助）

【取組実施後（運航開始後）】

課題 安定的な運航と冬場対策

運航当初は、船に屋根が無く、雨天時などは運航できないなど稼働日数が不安定であり、独立した事業として経営が成り立つか不安な状況であった。

解決策 平成10年に雨や夏の日差しをさける可倒式屋根が取り付けられた後は、安定した運航が可能となった。また、冬場には、こたつ船を準備し、好評を博している。

お問い合わせ

松江市観光振興部
観光ブランド推進課

TEL：0852-55-5632

E-mail：brand@city.matsue.lg.jp

明日香村

【あすかむら】

- 「公共交通活性化総合プログラム」により、地域住民と観光客の双方のニーズに合った新しい公共交通システムの構築に取り組んだ好事例



観光客の目をひく木造のバス停

■ 取組概要

地域住民と観光客の双方のニーズに合った公共交通システムの構築を目指して(かめバス)

村民の生活支援、観光ピーク時の交通円滑化、観光客の利便性向上という3つを目的とし、観光客の増加を図ることによって村の活性化を促す。また、起伏が多く立ち寄り先が点在する本村にとって利便性の高い公共交通システムを構築することにより、従来の立ち寄り型観光から滞在型、リピート型観光への転換を期待している。

さらに世界遺産登録を目指し、運行ルートや運行便数、外国人対応等の見直しを検討中である。

これまでの経緯

- 平成12年 本村において新しい公共交通システムの構築を目指そうと、レンタサイクルと実験バスを組み合わせ、愛称「かめバス」と称する交通社会実験を実施。
- 平成13年 高齢化、過疎化の進行に伴い、村民の生活支援の一環として外出支援の必要性が高まる。
- 平成14年4月～ 無料の村内循環バスを運行。しかし、当時の循環バスは民間バス会社が運行する路線バスとの接続も図られておらず、村民や観光客の双方のニーズに合った運行となっていないため、利用が伸びない状況となっていた。
- 平成14年度 国土交通省の『公共交通活性化総合プログラム』を活用して、奈良県・近畿運輸局・民間バス会社・各関係機関の代表者から構成される『公共交通活性化推進協議会』を立ち上げ、専門的な視点からのご意見を踏まえ、村民と観光客の双方のニーズに適合した新しい公共交通のあり方について検討。
- 平成15年9月～ 奈良交通株式会社に協力を求め、共同で新しい公共交通サービスを提供できる『明日香村における周遊バス・循環バスへの利用転換実証実験事業費補助』制度を活用した実証実験を開始。
- ・世界遺産登録を目指す本村にとって、公共交通システムは必要不可欠なものと考えており、平成20年8月に明日香村地域公共交通会議設置要綱を定め、交通会議を開催した。



統計データ

○赤かめバス（周遊バス）年間利用者数	平成18年度	100,689人	平成19年度	100,875人
○金かめバス（循環バス）年間利用者数	平成18年度	12,301人	平成19年度	12,330人

地域づくりのノウハウ

課題 奈良交通株式会社へ支払う赤字補てんの財源確保。

解決策 厳しい財政状況の中で、財源を捻出しているのが現状である。今後は、企業を巻き込んでいけるような施策の展開等を検討している。

課題 バス車両の老朽化に伴う車両の買い換え、環境にやさしいエコ対策など。

解決策 財政状況や費用対効果等を考慮しながら、車両の買い換えかリース等を検討。

パークアンドライドを採用して環境負荷を少しでも減らす努力をする。



お問い合わせ

明日香村役場

TEL：0744-54-2001

URL：http://www.asukamura.jp/kame_bus/

湯原温泉・「天井号」

【ゆばらおんせん・てんどんごう】

- 温泉街での民間主導によるエコな取組と観光のタイアップ
- ユニークな取組が功を奏して新たな観光コンテンツに



廃食用油を燃料とする「天井号」

■ 取組概要

エコでレトロ!!「天井号」で観る知る、湯原温泉の秘密とエコ

湯原温泉は、貴重な生物である大山椒魚（オオサンショウウオ）や河鹿蛙（カジカガエル）も数多く生息し自然豊かな温泉地として長い間人々を癒してきた。しかし近年、温泉街を流れる風情ある川が汚れてきた。数々の要因が考えられたが、自分達のできることから始めようと「天ぷら油を川に流さない」運動を開始。EDF（エコ・ディーゼル・フューエル）廃食用油は、学校のPTAや公民館コミュニティー活動を行っている皆さんの協力により回収し、車の燃料として使用できるよう精製し、この動きに行政も呼応し湯原エリア限定ながらゴミステーションに天ぷら油回収容器のポリタンクを設置。

回収され精製されたEDFは、大気汚染も少ないということで市内で利用する旅館の送迎車やコミュニティバスなどに使用されている。

ただこれだけの素晴らしい事業がなかなかお越し下さるお客様に知って頂けない。どうせならお客様にも我々の努力を知って頂き湯原温泉を応援するファンになって貰いたい。さらにお客様にもエコについて考えるきっかけとなればと考え、英国製のロンドンタクシーによる温泉街のエコツアーを開始した。

天ぷら油で走るロンドンタクシー、略して天井号。このエコツアーでは湯原温泉の特異な温泉環境や自然環境や大山椒魚などをご覧頂き環境問題の啓発を行っている。

これまでの経緯

- 平成15年 温泉指南役養成事業を開始。温泉と川、山など自然との関わりに関心を持つ。
- 平成16年 温泉と医療との連携を研修目的にドイツに赴きエコとバイオについても研修する事となった。
- 平成16年9月 食品廃棄物の堆肥化と廃食用油の活用についてエコライフ商友と話し合い、まず廃食用油の燃料化を行う事で合意。その後、即行動を起こし各地のEDF事業を研修した。
- 平成16年10月 エコライフ商友（代表 河野慶治）が廃食用油の精製機を購入。
- 平成16年11月 プチホテルゆばらリゾート（旅館組合代表 古林伸美）がロンドンタクシーを購入、廃食用油対応の為の改造を行う。
- 平成16年12月 旅館からの廃食用油の回収とロンドンタクシーの実験走行を開始。実験走行は、EDF利用の不安をなくす為、翌年4月まで毎日2、3回温泉街を周回。
- 平成17年1月 小学校中学校のPTAの合同会議で天ぷら油の廃油回収について協力で合意。
- 平成17年2月 公民館コミュニティ活動において天ぷら油の廃油回収について合意。
- 平成17年2月 湯原温泉におけるEDF事業をプレス発表。
- 平成17年4月 湯原町旅館協同組合としてEDF利用の送迎車両の出発式及びプレス発表。ロンドンタクシーによるエコツアーを一部で開始。
- 平成17年8月 真庭市湯原支局の協力で環境衛生協会の理解も得て湯原エリア28ヶ所のゴミステーションに天ぷら油の回収容器を設置。これにより回収量が増える。
- 平成18年4月 真庭市のバイオマスツアーに協力。ツアー時に無償でEDF事業の説明とロンドンタクシーの試乗を実施。
- 平成18年5月 ロンドンタクシーによるエコツアーを新聞、雑誌、インターネットなどで告知
- 平成19年2月 ロンドンタクシーの名称を「天井号」と改名。さらに1台を追加購入。



統計データ

○稼働状況（平成21年1月現在）

平成18年度 240組 1,500人 平成19年度 390組 1,640人 平成20年度 550組 3,200人

地域づくりのノウハウ

事業開発時

課題 EDFで実際に走ることができるか、故障、気候等の変動の影響などの技術的不安感があった。

解決策 EDF利用の不安をなくす為、ロンドンタクシーで雨や雪の日も実験走行により不安を打開。

事業実施時

課題 事業を進めていくための、天ぷら油の回収量が少なく確保に苦労。

解決策 学校のPTAや公民館コミュニティ活動を行っている皆さんに協力を呼びかけ、廃食用油を購入し本などを小学校に送った。

真庭市湯原支局の協力で環境衛生協会の理解も得て湯原エリア28ヶ所のゴミステーションに天ぷら油の回収容器を設置。これにより回収量が増える。

事業実施後

課題 これだけの素晴らしい事業がなかなかお越し下さるお客様に知って頂けない。

解決策 廃食用油回収ゴミステーションに看板を取り付けたり、EDFで走る車にシールをはった。EDF事業のシンボルとしていた英国製のリムジン、ロンドンタクシーによる温泉街のエコツアーを始めた。

お問い合わせ

湯原観光情報センター

TEL : 0867-62-2526

URL : <http://www.yubara.com/>

湯西川・水陸両用バス

【ゆにしがわ・すいりくりょうようばす】

- 過疎化と高齢化が進む地域でダムを観光資源として活用
- ユニークな車両の運行だけでないプラスアルファで魅力向上



川治ダムを航行する水陸両用バス

■ 取組概要

ダム＋水陸両用バスを活用した水源地域の活性化

近年、日光市栗山地域では過疎化及び少子高齢化が進み、過去40年間で人口は半減、高齢化率も32.5%となっている。主要産業である観光業についても、観光客のニーズの多様化及び地域的魅力の低下により、宿泊客の減少が続いていることから、ダムが観光資源として地域振興に寄与する新たな観光振興策の開拓が望まれた。

そこで、日本で1台しかない「水陸両用バス」の導入計画が持ち上がり、平成19年7月～11月の間、栃木県日光市の川治ダムにおいて国土交通省や地元関係者などが作る鬼怒川流域ダム観光活性化会議が企画して、観光目的での集客見込み等の社会実験としての商用運行を、ダム内部見学とダム湖上クルージングを組み合わせたツアー形式で実施した。現在は継続的・自立的な通年運行を目指している。

これまでの経緯

- 平成18年 8月 「鬼怒川流域ダム観光活性化会議」を設立。(国土交通省、日光市、地元ほか)
- 平成18年 8月～9月 「水陸両用バス親子体験ツアー」(体験乗車+ダム見学会)を無料で開催。(約1,000人参加)
- 平成19年 7月～11月 日本初、長期間にわたる有料化での実験運行を実施。(地元企業が運行と旅行商品開発・販売を担当)
- 平成20年 5月 「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の法定協議会として、「水陸両用バス導入協議会」(会長：日光市長)を設立
- 平成20年 7月～11月 日本初の国産車を導入し、地域公共交通活性化・再生総合事業の認定を受け、実験運行を実施。(水陸両用バス導入協議会による運行)
- 平成21年 2月 通年運行を目指し、集客が厳しい冬季での運行調査を実施。
- 平成21年 7月 「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく新地域旅客運送事業に認定。
- 平成21年 7月～11月 地元地域を中心とした運行体制確立のため、地元へNPO法人日本水陸両用車協会湯西川支部を設置。地域公共交通としての実現を図るためNPO法人日本水陸両用車協会に運行委託し、乗合バスによる実験運行を実施。



統計データ

- 水陸両用バスの利用者数
- ・平成18年度 約 1,000人
 - ・平成19年度 11,136人 (平均乗車率：約91%)
 - ・平成20年度 15,332人 (平均乗車率：約78%)

地域づくりのノウハウ

課題 ダムを観光資源とした地域活性化

解決策 河川管理者、地元自治体、地元関係者など、地域が一体となった「鬼怒川流域ダム観光活性化会議水陸両用バス導入協議会」を設立し、水陸両用バスを導入した日本初の社会実験を実施し、ダムが観光資源となることを実証する。

課題 湯西川ダムの完成後には、地元地域において事業を継続していく必要がある。

解決策 事業継続のために「水陸両用バス導入協議会」を設立し、徐々に地元地域へ役割を移行し、平成23年度までには地元地域で運行可能な仕組みを構築する。

解決策 平成21年度以降、「地域公共交通総合連携計画」に基づく施設整備を行い、地元地域に根付いた運行を行えるような道

筋をつけていく。

課題 誘客に効果的なコースの設定

解決策 ダム湖上だけではなく、ダムの内部見学を取り込むことで、魅力的なコースを設定した。

課題 水陸両用バスの認知度の向上

解決策 首都圏の誘客を図るため、鉄道駅へのポスター掲示に加え、実車によるデモ走行を実施した。

解決策 「水陸両用バス」の道の駅での待機による広告塔としての効果もあった。

課題 バスガイドの工夫

解決策 水陸両用バスの説明だけではなく、地域ガイドとしての情報をプラスした説明を実施。

お問い合わせ

湯西川ダム工事事務所
調査設計課

TEL：0288-78-0394

URL：http://www.ktr.mlit.go.jp/yunishi/

ユニークな車両等の運行

タンゴ浪漫ライン

【たんごろまんらいん】

- 第三セクター鉄道が美しい車窓風景を活用した観光列車を運行、二次交通の魅力向上
- 周辺観光地の交通事業者が連携して共同企画乗車券を発売、周遊の利便性向上



若狭湾沿岸を快走する「タンゴ悠々号」

■ 取組概要

ビューポイントでの一旦停止、最徐行運転する観光列車の運行とフリータイプ乗車券の設定による観光旅客誘致

北近畿タンゴ鉄道は、京都府北部の5市町を中心に114kmにわたり縦横断する第3セクターの鉄道会社であるが、近年の沿線地域の少子化や大量定年、道路網整備の進捗によるマイカーやバスへのシフトなどにより年ごとに輸送需要が減少し、厳しい経営環境にある。このような状況の中、当該地域の素晴らしさ、美しさなどの情報発信及び鉄道を中心とした企画として、「タンゴ悠遊号」を運行している。これは、若狭湾国定公園に指定されている奈具海岸（丹後由良～栗田間）や京都府下で一番長い橋梁「由良川橋梁」（551m）（丹後神崎～丹後由良間）の美しい風景を活かして、当該地点で一旦停止、最徐行運転するダイヤで運行する観光列車で、平成18年夏期間臨時列車として試行運行、平成19年3月改正から定期列車化。また、北近畿タンゴ鉄道と、周辺観光地に係る二次アクセスとなる丹後海陸交通とが連携して、各個別に設定しているフリーパスを1枚にセットした、初の共同企画乗車券「天橋立まるごとフリーパス」を設定。

■これまでの経緯

(タンゴ悠遊号)の運行

平成18年当初 観光列車の企画

平成18年 夏休み期間臨時列車の設定(土休日・上下各1本:10日間運転)

平成19年3月改正 「タンゴ悠遊号」の定期化(下り1本・上り3本)

平成20年3月改正 増発による更なる充実(タンゴ浪漫号の新設・タンゴ悠遊号の増発)

タンゴ浪漫号(上下各1本) 毎日運転

タンゴ悠遊号(下り2本・上り3本) 土休運転

(観光型列車を活用した観光旅客誘致)

平成20年度 旅行会社への提案

「ローカル列車・旅企画」(バス行程の中にローカル列車乗車を組み込み) 発売開始

(天橋立まるごとフリーパス)の設定

天橋立までの鉄道と駅からのアクセス及び観光施設の入場券等がセットになったきっぷを設定することにより、お客様の利便性向上と利用増を図ることが目的。

平成20年8月 KTR・丹後海陸交通との定期的な打合せ開催

平成20年9月 KTR・丹海「たんでアクセス・ネット」の発足

平成20年10月 初の共同企画乗車券「天橋立まるごとフリーパス」発売開始

平成21年3月 2 days天橋立まるごとフリーパス発売



■統計データ

○「タンゴ悠遊号・浪漫号」利用者数

平成18年度(臨時設定): 675人 平成19年度(定期化): 20,753人 平成20年度(増発) 12月まで 30,192人

○「天橋立まるごとフリーパス」の企画乗車券の販売実績

平成20年度 10/10~3/31 453枚 平成21年度 4/1~5/31 407枚

🔍 地域づくりのノウハウ

・「タンゴ悠遊号」の運行

課題 観光型列車単独でのダイヤ設定(定期列車と別設定)

解決策 当初単独設定を検討したが、車両数、乗務員需給、ダイヤ構成等の制約面で厳しいことから、通常定期列車を観光旅客主体である土休日に限って観光型列車として運行することにした。(平日は定期列車)

(車両増、乗務員増にならない工夫で実施)

課題 異常時(強風等)における由良川橋梁最徐行運転

解決策 異常時においては、マニュアルどおり最寄駅での停車など、安全面から橋梁上での最徐行の取り扱いはしないこととした。

課題 列車愛称名をPRするヘッドマークの作成

解決策 車両型式、経費節減面から、社員の手作りによるヘッドマ

ークの作成・取り付け

課題 沿線ビューポイントにおける観光案内

解決策 車内自動案内放送の作成、KTRアテンダントの乗務による車窓からの観光案内を実施

・「天橋立まるごとフリーパス」の設定

課題 共同企画乗車券設定に向けた調整(各独自のフリーきっぷのセット化)

解決策 KTR・丹海「たんでアクセス・ネット」の発足により、調整が比較的容易に出来た。

課題 商品の魅力付け(特典の付加) 協力

解決策 天橋立エリアの観光施設、お土産店、食事処で、乗車券の呈示で割引などの特典が受けられるよう協力を得ることが出来た。

お問い合わせ

北近畿タンゴ鉄道株式会社 TEL:0773-24-2510 URL:<http://www.ktr-tetsudo.jp/>
丹後海陸交通株式会社 TEL:0772-42-0321 URL:<http://www.tankai.jp/>

7. 域内交通に係る取組(参考編)



1 カムイワッカシャトルバス

■環境省ウトロ自然保護官事務所
TEL.0152-24-2297 URL <http://hokkaido.env.go.jp/kushiro/>
URL <http://shiretoko-whc.jp/whc/>



環境保護と混雑緩和

知床五湖からカムイワッカに至る約11kmの道道知床公園線は狭隘な砂利道で、特に夏期のお盆時期にはカムイワッカ付近で数100mに及ぶ交通渋滞が発生していた。そのため、環境保護と混雑緩和の観点から平成11年度からシャトルバスを運行している。

2 弟子屈町【てしかがちょう】

■弟子屈町企画財政課環境室環境政策係
TEL.015-482-2913 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>



「環境にやさしい観光交通体系の構築に向けて」～自然環境と観光と地域社会の共生を目指して～

多くの来訪者がある景勝地において車両等による環境プレッシャーを低減し、摩周湖を始めとした次世代に残すべき貴重な自然資源の保全をどのように図るのか、また一方で観光資源としてどう活用していくのか、その共生方策を環境にやさしい公共交通の在り方を通じて検証した。

3 早池峰シャトルバス【はやちねしゃとるばす】

■早池峰国定公園地域協議会 花巻市生活福祉部生活環境課
TEL.0198-24-2111 (内線256)
URL <http://www.city.hanamaki.iwate.jp>



早池峰山登山はシャトルバスをご利用下さい

早池峰国定公園の登山者は、殆どが自家用車や貸切バスで花巻市側から入山しており、日曜日には自家用車やバスが集中し路上駐車のため登山口に辿りつけない事態が発生していた。

平成10年度から地域住民等の協力もあり、車両通行規制と代替交通手段としてシャトルバスを運行している。

この取組以後、交通渋滞が緩和され、登山者からは登山口までの時間が計算できるようになったと好評である。

4 京都市・大津市【きょうとし・おおつし】

■大津市
TEL.077-523-1234 URL <http://www.city.otsu.shiga.jp/>



「古都大津・京都めぐり」駅までマイカー、電車で観光

大津・京都への観光に、自動車から鉄道への乗り換えを促進することにより、慢性的な交通渋滞を引き起こしている京都東山区の自動車流入抑制を図る。平成20年1月からは、京都市営地下鉄延伸により京阪電車大津線の乗り入れ区間が延長され、京福電車嵐山本線に乗り継ぎることにより、京都嵐山方面まで観光客の行動範囲が拡大し、嵐山地区の自動車流入抑制も図られている。

5 吉野山【よしのやま】

■吉野山観光協会
TEL.0746-32-1007 URL <http://www.yoshinoyama-sakura.jp/top.htm>



桜の名所「吉野山」の交通渋滞・水不足・ゴミ問題の解消

吉野山は、毎年約30万人もの観光客が訪れるが、そのピーク時には渋滞や水不足、観光客が残すゴミが問題となっていた。このような様々な問題解決のため、吉野山観光協会などの地元組織や吉野町が中心となりシャトルバスの運行やゴミ収集・分別の実施などについて取組んできた。しかし、地元だけの取組では限界があったため、国土交通省近畿運輸局の公共交通活性化総合プログラム事業を導入し、実態調査や実施計画の策定を行い、パークアンドバスライドの実施、バス駐車場の予約制の実施、公共交通利用促進の広報などを実施したところ、交通渋滞の解消、ゴミ問題の解決などにつながった。

6 石見銀山遺跡 【いわみぎんざんいせき】

■大田市産業振興部（観光担当）

TEL.0854-82-1600(代) URL <http://www.visit-ohda.jp/>

「穏やかさ」と「賑わい」の両立を目指して

世界遺産登録を控えていた時期に、多くの観光客が訪れることを予想し、地元と行政が一体となり交通実験を重ね、登録直前の平成19年4月より石見銀山方式のパークアンドライドを開始した。石見銀山遺跡は、狭隘な谷間にあり、車両の離合が困難な生活道路に沿って史跡や文化財が点在するが、パークアンドライドを開始したことにより、住民生活を守り、来訪者にも安全かつ安心して観光していただき、「穏やかさ」と「賑わい」を両立させるために効果を上げている。

7 日田市 【ひたし】

■日田市観光・ツーリズム振興課

TEL.0973-23-3111 URL <http://www.city.hita.oita.jp>

水郷日田イメージアップによる宿泊魅力の向上

水郷日田の風情を漂わせる三隈川の屋形船と鵜飼は、日田市を代表する観光資源であるが、この屋形船と鵜飼の利用者も年々減少しており、新たな利用が検討されていた。日田温泉旅館街の交通渋滞緩和と川観光の魅力アップを目指して、旅館街までの400mを屋形船で運ぶ事業を実施。船内ではボランティアガイドが三隈川の歴史や見どころを説明し、15分間の船旅が楽しめる。

8 養老溪谷・梅ヶ瀬溪谷 【ようろうけいこく・うめがせけいこく】

■市原市商業観光課（養老溪谷観光推進協議会パークアンドバスライド事業担当）
TEL.0436-23-9755 URL http://www.city.ichihara.chiba.jp/070keizai/kankou/i_e_0.htm

紅葉時期の養老溪谷周辺の渋滞を緩和するパーク&バスライドの実施

紅葉が見頃の時期に発生する交通渋滞を緩和するために、自家用車からシャトルバスへの乗り換えを勧める「パーク・アンド・バスライド」を実施。バスは梅ヶ瀬溪谷方面と養老溪谷方面の2系統を運行する。また、養老溪谷を訪れた観光客へのおもてなしとして、バス駐車場や小湊鉄道養老溪谷駅前での観光案内や物販なども併せて行う。

9 ニセコアンヌプリ

■ニセコ町企画課経営企画係

TEL.0136-44-2121

URL <http://www.town.niseko.hokkaido.jp/jbus/>

ふれあいシャトル(これまで「町民の足」だった「ふれあいシャトル」を「観光」に利用)

ふれあいシャトルに自転車積載を可能としたことで、急峻な地形を逆手にとり、高原地域から市街地や観光地への移動を、自転車ではば pedal を踏まず楽に散策し、帰り（登り）は自転車と共にバス乗車できるようになった。

新たな観光ツールとして、またCO₂排出量の少ない移動手段としての利用を目的としている。

10 南房総市・館山市 【みなみぼうそうし・たてやまし】

■南房総市観光プロモーション課

TEL.0470-33-1091

URL <http://www.mboso-etoko.jp/kurukuru/index.html>

公共交通と自転車を使い継いで自分だけの南房総さがし

南房総エリアにおいて不足する2次交通を補完し、観光客等の周遊性を向上させるための乗捨てのできるレンタサイクルのシステムを構築。

16の拠点を設け実証実験を行った結果、13の拠点の協力で20年度以降においても乗捨てシステムを継続。

今後、館山市、鴨川市及び鋸南町を含めた南房総エリアでの統一したレンタサイクルシステムを検討し、拠点の拡充や周遊性の向上を目指す。

11 甲賀地域ほか鉄道沿線地域 【こうがちいきほかてつどうえんせんちいき】



鉄道・バス・自転車を上手く使ってエコ交通の推進

自動車に頼らない、自然と人に優しいエコ交通の推進を目的として、鉄道に自転車を持ち込める「サイクルトレイン」を運行し、滋賀らしいエコ交通を推進する。近江鉄道では平成14年から本線と多賀線で実施（彦根、水口石橋駅は除く）、持ち込み料金は無料。信楽高原鐵道では平成16年から、信楽―紫香楽宮跡間で実施、持ち込み料は1台270円。

域内交通手段の確保

沖縄県西原町

12 西原町 【にしはらちょう】

■西原町

TEL.098-945-4533 URL <http://www.town.nishihara.okinawa.jp/>



西原マリンパークとモノレール首里駅を約30分で運行

西原町では、平成19年度の「公共交通活性化総合プログラム」において、公共交通空白地域（池田・小波津地区）における生活交通確保のための方策について検討を行い、乗合タクシー又は小型バスの導入を目指していくことが確認された。

平成20年度は、平成19年度の検討結果を踏まえ、当該地域における正確な需要を把握するとともに、21年度以降の生活交通のあり方を明らかにすることを目的に、「乗合タクシー・バス運行実証実験」を実施した。

域内交通手段の確保

兵庫県神戸市

13 有馬温泉 【ありまおんせん】

■有馬温泉観光総合案内所

TEL.078-904-0708 URL <http://www.arima-spa.com/>



有馬温泉旅館組合によるバスの運行

有馬温泉を端から端まで歩くのは少し距離があり、坂道も多い。そのため、ワンコイン（100円）で気軽に移動できる周遊バス（ループバス）を地元業者と連携して運営実施した。

当初チャーター型がいいか路線ワンコイン型がいいかという議論があったが、ワンコイン型に決定し、平成13年12月から運行を開始した。

運行にあたっては、地元の株式会社神戸電鉄に委託し、組合が損失を補てんする形で運行している。

ユニークな車輛等の運行

長野県上田市

14 上田電鉄別所線 【うへだでんでつべっしょせん】

■上田電鉄株式会社

TEL.0268-39-7117 URL <http://www.uedadentetsu.com/>



「乗って残そう」をキーワードに事業者・地域住民が一帯となった利用促進の取組

上田市は、別所線再生支援協議会などを中心に関連団体や住民団体と一体になって、別所線の存続に向け、「乗って残そう」をキーワードとした使用促進策を展開している。

上田市の合併3年目記念として「原田泰治の世界展IN上田」を平成20年に実施したが、この取組の一つとして、画家・原田泰治先生デザインによる別所線の車両ラッピングを行い、別所線の支援・利用促進を図った。また、車両ラッピングには、「地域公共交通活性化・再生総合事業」として国の支援を受け事業を実施した。

ユニークな車輛等の運行

福岡県北九州市

15 門司港レトロ地区 【もじこうれとろちく】

■北九州市 門司港レトロ室・平成筑豊鉄道株式会社

TEL.093-322-1188 URL <http://www.city.kitakyushu.jp/>
TEL.093-331-1065 URL <http://www.retro-line.net/>



海峡沿いを走る観光トロッコ列車と、その終着駅と展望台とを結ぶ「めかり絶景バス」の運行

休止中の臨港貨物線の線路を活用して、都市型観光地「門司港レトロ」と瀬戸内海国立公園の一部である景勝地「和布川公園」とを結ぶ観光トロッコ列車の運行を開始した。あわせて、同列車の終着駅・関門海峡めかり駅前から、海峡の雄大な景観を楽しめる展望台との間を往復する「めかり絶景バス」も運行している。

それら2つの交通機関の誕生により、観光エリアが面的に拡大しただけでなく、観光客の滞在時間の延長や、めかりと対岸の下関市・壇ノ浦とを結ぶ関門国道トンネル（人道）などを活用した新たな観光ルートの形成が図られ、地域振興に大いに寄与している。

16 松山市中心地区【まつやましちゅうしんちく】

■伊予鉄道株式会社庶務課

TEL.089-948-3222 URL <http://www.iyotetsu.co.jp/>

「坊っちゃん列車」(路面電車) 「マドンナバス」(レトロバス)

昔、夏目漱石の「坊ちゃん」に“マッチ箱のような…”と書かれた鉄道が松山市を走っていた。その鉄道は「坊っちゃん列車」と呼ばれ市民に親しまれていたが、列車の電化に伴い姿を消していった。

そんな中で、平成13年に地元地域からの熱い声を受け、また地域活性化の起爆剤として復活した。現在は松山観光の目玉として運行している。

また、『坂の上の雲』の主人公である秋山兄弟、正岡子規などの先人ゆかりの土地を回遊するため、レトロ調の小型バス「マドンナバス」が完全予約制で毎日運行されている。

路面電車は、一日乗り放題400円、マドンナバスは、観光料金を含み1,700円である。

17 四国全域【しこくぜんいき】

■四国旅客鉄道株式会社

TEL.0570-00-4592 URL <http://www.jr-shikoku.co.jp/>

アンパンマン列車

JR四国では、吉野川の大歩危・小歩危の渓谷や、清流四万十川、瀬戸大橋を満喫出来る各種「トロッコ車両」を観光列車として運行している。平成12年1月に四国内を走るアンパンマン列車が誕生し、平成18年10月には四国の間伐材を活用した装飾を施した「アンパンマントロッコ」も誕生、平成20年12月からは、アニメ「それいけ!アンパンマン」の声優、戸田恵子さんの声による車内放送を実施、パン工場の中をイメージした車内で座席もアンパンマンシートにする等、常にリニューアルをして多くのファンを楽しませている。

18 嵯峨野トロッコ列車【さがのどろっこれっしや】

■嵯峨野観光鉄道株式会社

TEL.075-861-7444

URL <http://www.sagano-kanko.co.jp/index.php>

明治時代の鉄道線路を観光資源として再生

歴史的景観が多く残る京都において、常に新鮮さを求める観光客の新しい「期待」に応えるべく、駅業務から線路沿線の雑木整理、植樹という重労働をもこなし、地道な努力とユニークな発想で、「嵯峨野・トロッコ列車」という京都のひとつの魅力を創出し、地域の観光振興にも尽力している。

路線を整備し、木々の剪定をしたり、桜並木を沿線に植え、ライトアップや列車案内などユニークなサービスを提供。